

甲佐高校職員研修

テーマ：「高等学校の特別支援教育を問いつ返す」

2月9日(月)に甲佐高校視聴覚室において、九州ルーテル学院大学河田将一教授(インクルーシブな学校運営研究事業 連携協議会委員)をお招きして、職員研修が行われました。

この研修に先立ち、甲佐高校の先生方を対象に「UD の視点に立った環境整備と授業づくり」についてアンケートを実施しました。自由筆記では、合理的配慮の提供の必要性は認めつつ、周りの生徒との公平性や、適切な内容や方法に悩まれている様子がありました。また、UD の視点に立った「環境整備」や「授業づくり」をどのように行っているかの問いでは、

- ・電子黒板の画像を個々の生徒のタブレットに転送することで、ノートテイクの負担軽減を図っている。
- ・黒板や電子黒板で使用する文字の大きさや色の配慮
- ・視覚・聴覚活用、実際に書くなど、生徒の特性に合わせるために様々な方法で授業づくりを行っている。
- ・球技などでは誰もが参加できるよう、柔軟にルールの変更をしている。
- ・肯定的で次につながるような言葉かけをしている。

このほかにも、生徒や教科の特性に合わせた工夫をされている記述がありました。

更に、職員各自がUD の視点で行っている取組や成功事例・失敗事例の共有が重要などの意見もあり、職員の総意で授業の質を上げたいと思われる様子が伝わってきました。

河田教授の講話では、直接的・間接的な配慮・支援のチェックポイントや生徒の強みを生かした指導方法、具体的な合理的配慮の例を詳しく示していただきました。更に、一斉授業形態での支援体制充実のために、ユニバーサルデザインでの授業づくりの視点などもご教示いただきました。一斉授業での創意工夫をしたうえで、個々の生徒へ合理的配慮を適切に提供することを再確認することができました。この研修には上益城分教室の職員も参加しました。

第3回連携協議会

2月26日(木)に第3回連携協議会を開催し、本年度の取組の報告と次年度の研究の進め方について協議を行いました。2月20日(金)に行われた文部科学省主催の本事業中間成果報告会の報告も併せて行いました。次年度は10月9日(金)に公開研究発表会を開催する予定です。

最後に河田教授から本年度のまとめと今後の研究への指導助言をいただきました。

○共同学習での「相互乗り入れ」は、教師にとって次のことが期待される

甲佐高校にとっては

複数教師等での指導力の向上 柔軟な教材開発力の向上

個別対応・配慮力の向上 等

上益城分教室にとっては

一斉指導力の向上 教科指導力の向上 等

○交流及び共同学習を充実拡大するための基本の体制

- 1 交流の機会の増大が共同学習の機会を生む
- 2 抽出した展開を漸次的に拡大する
- 3 ワクワクしながら「まずはやってみる」
- 4 途切れない支援と同様に「途切れない協議(会議)」

卒業式

3月10日(火)に上益城分教室3年生の3人が卒業を迎えました。甲佐高校の原校長先生にもご出席いただき、皆さんで卒業を祝いました。式後は甲佐高校の生徒会の皆さんが廊下で華やかな紙吹雪とアーチで出迎えてくださいました。教室では歌を歌っていただき、卒業生一人一人にエールも送っていただきました。最後は一緒に記念写真を撮り、3年間の交流及び共同学習の集大成としました。分教室では甲佐高校の卒業生に送る横断幕を作成し、卒業式会場である甲佐高校体育館に生徒と職員で掲示しました。入学式でもお祝いの交換をする予定です。



卒業式の数日後、甲佐高校の2年生が10数名、上益城分教室に来て一緒に卓球を楽しみました。分教室生徒は毎日昼休みに卓球を楽しんでいるので力も拮抗し、とても盛り上がりました。両校の生徒が自由に行き来し、ワクワクしながら交流及び共同学習ができる機会が拡充するよう、引き続き連携を図っていききたいと思います。

